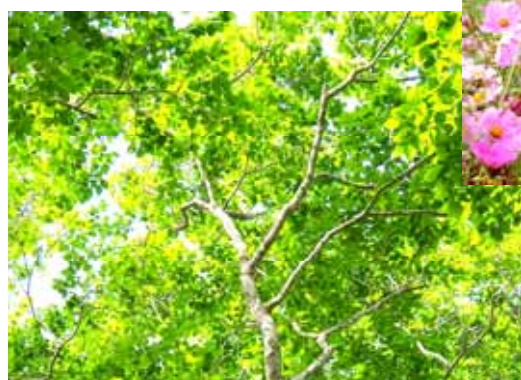


環境報告書2006

ENVIRONMENTAL ANNUAL REPORT



凌和電子株式会社

編集方針

凌和電子(株)は、環境への取り組みが事業経営上不可欠のものと考え、環境保全活動を推進しています。

本報告書は、当社の環境に関わる活動を紹介することを目的としていますが、併せて、広く分かり易く、又、当社のお客様並びに社会の方々から信頼される会社になり続けたいとの思いを込め編集しています。尚、本報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン2003年版」を参考とし、当社の環境保全活動状況及び今後の取り組み等について記載しています。

目次

1. 編集方針/報告対象範囲	1
2. 社長挨拶/副社長挨拶	2
3. 会社概要	3
4. 凌和電子の基本理念	4
5. 環境マネジメントシステム	5
6. 2005年度環境目標及び活動実績	6
7. 環境配慮型製品の提供	7
8. グリーン調達	8
9. 環境負荷低減活動	9
地球温暖化ガスの排出削減、省資源活動、 廃棄物排出削減、化学物質管理	
10. 環境リスクマネジメント	14
11. 環境教育	15
12. 環境監査	17
13. 環境コミュニケーション	19
14. 地域貢献活動	20
15. 環境負荷マスマランス	21

- 報告対象範囲 -

報告対象期間: 2005年7月1日～2006年6月30日(2005年度)
報告対象: 凌和電子株式会社(本社、本社工場、元町工場、山形工場)

報告期間中に発生した組織の大きい変化
2006年2月に東部工場を元町工場に併合し、東部工場を閉鎖しました。

2. 社長挨拶 / 副社長挨拶

弊社環境報告書の発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

弊社は昭和47年に計測機器メーカーとして設立し、以来34年、お客様を始めとしてお取引様、協力会社様、大学、研究機関の皆様など多くの方々のお力添えをいただき歩んでまいりました。そして又、弊社の製品が世の中の発展にいくばくかでも貢献できるよう努力してまいりました。

さて、21世紀は環境の世紀と言われているように、地球環境保全に関する取り組みが世界的に行われており、さまざまな分野で活動がなされています。近年、地球環境の危機がいつそう強く叫ばれている中、限りある地球資源を用いて活動している企業の責任はますます重くなってきています。その意味で、企業の一員である我々においても、この地球環境への配慮をなくしては、社会的信頼も得られず、存続することはできないと思っております。そのことは、弊社のお客様からも弊社の環境への取り組みの姿勢が評価される時代にもなったことから明らかです。

このような背景を踏まえ、今年2月ISO14001の認証を取得し、これまで以上に環境への取り組みを強めることを明確にし、実行してまいりました。そして今回、その結果をステークホルダーの皆様にご報告する目的で本報告書を発行することいたしました。本報告書は、弊社の2005年度の環境活動の実績をまとめたものですが、是非ご一読賜り、弊社の取り組みをご理解いただくと共に、皆様方の忌憚りの無いご意見をいただければ幸いです。

これからも、環境負荷の低減はもとより、環境に配慮した製品の提供等環境保全の姿勢を第一に事業運営を進めてまいりますので何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

凌和電子株式会社
代表取締役 社長 安藤正如



地球環境問題が我々に身近な存在となってきた昨今、企業の環境に関わる姿勢があらゆる角度から注視されています。一企業として社会と関わっている弊社も例外ではありません。そのような中、弊社は環境保全への責任としてこれまでも個別の活動ではありましたが積極的に対応してまいりました。

そして昨年、一層の活動の強化を目指すために、又、組織的・システミック活動として推進するためにISO14001を導入することを決定し、昨年2月のキックオフから約1年間の活動を経て今年2月に認証取得をいたしました。

新たな環境保全活動は、弊社「環境目的・目標」、及びこれを具体化し、スケジュール化した「環境マネジメントプログラム」に基づいて実施してまいりました。

2005年度は、社会的流れであり、お客様のご要求でもあります有害化学物質の排除を初めとして、弊社が持つ環境負荷を低減することなど8項目の目標を掲げ実施してまいりました。

その結果、概ね当初の目標を達成し、特に環境負荷低減で掲げた「地球温暖化ガスの排出削減」、「紙資源の削減」、「節水活動の推進」は中期計画も達成する大幅な改善がなされました。



尚、不十分とした項目は「環境配慮型製品の提供」のみでした。これは、弊社としては初めての取り組みだったこともあり、定着するまで至らず、結果として製品アセスメント実績が予想より少なく「未達」と判断しました。

今年度は、この反省も踏まえ、更なる改善を図るための新たな計画・施策を持って活動を推進してまいります。

凌和電子株式会社
代表取締役 副社長(環境管理責任者) 安藤仁司

3. 会社概要

会社概要

- ・創立 昭和47年 7月28日
- ・資本金 7000万円
- ・役員 代表取締役社長 安藤 正如
 代表取締役副社長 安藤 仁司
 専務取締役 中島 正美
 監査役 浅野 秀一



事業内容

省力化用機器、制御装置設計製作、工業用電子計測機器類設計製作、各種PCボードパターン設計製作及び実装、マイクロコンピュータ応用制御システム及び計測システム設計製作、自動機システム設計製作、磁性材料計測システム、画像処理技術、各種情報処理

本社規模

敷地：1274.03㎡(約386.1坪) 建屋：1098.24㎡(約332.8坪)

工場規模

(元町)敷地：1717.40㎡(約520.4坪) 建屋：1055.22㎡(約319.8坪)

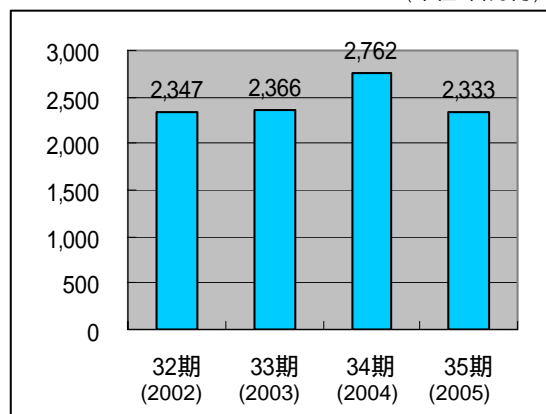
(山形)敷地：1866.94㎡(約565.7坪) 建屋：741.50㎡(約224.7坪)

沿革

1972(S47)	凌和電子株式会社設立(仙台市舟丁)
1989(H1)	仙台市鶴代町に東部工場開設
1999(H11)	山形市高原町に山形工場を建設
2000(H12)	仙台市若林区六丁の目元町に元町工場を開設
2001(H13)	ISO9001:1994認証取得
2006(H18)	ISO14001:2004認証取得
2006(H18)	東部工場を元町工場に併合

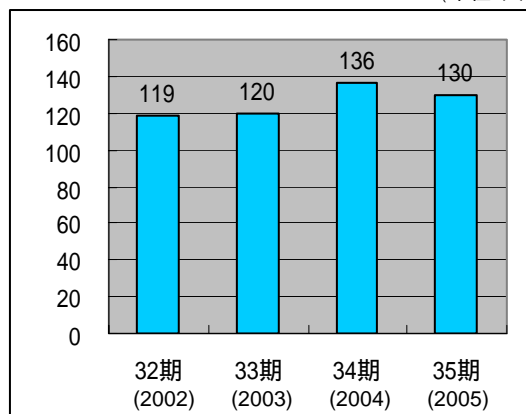
売上高推移

(単位:百万円)



従業員数推移

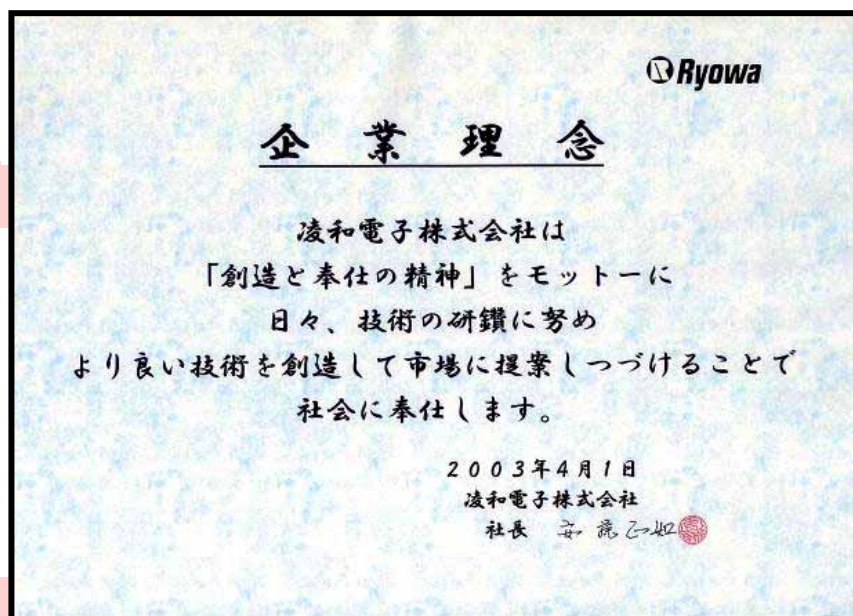
(単位:人)



4. 凌和電子の基本理念

凌和電子の基本理念

凌和電子は、「企業理念」から導かれた「経営品質方針」の中に「顧客満足の追求」と「社会への貢献」を謳っています。この「経営品質方針」に基づき、環境保全活動に関するより具体的な指針として「環境方針」を定めています。この方針は「基本理念」及び「行動指針」からなり、地球温暖化ガスの排出削減等の環境負荷低減を目指すに加え、環境に配慮した製品の提供を通して「持続可能な社会の実現」に貢献することを目指しています。

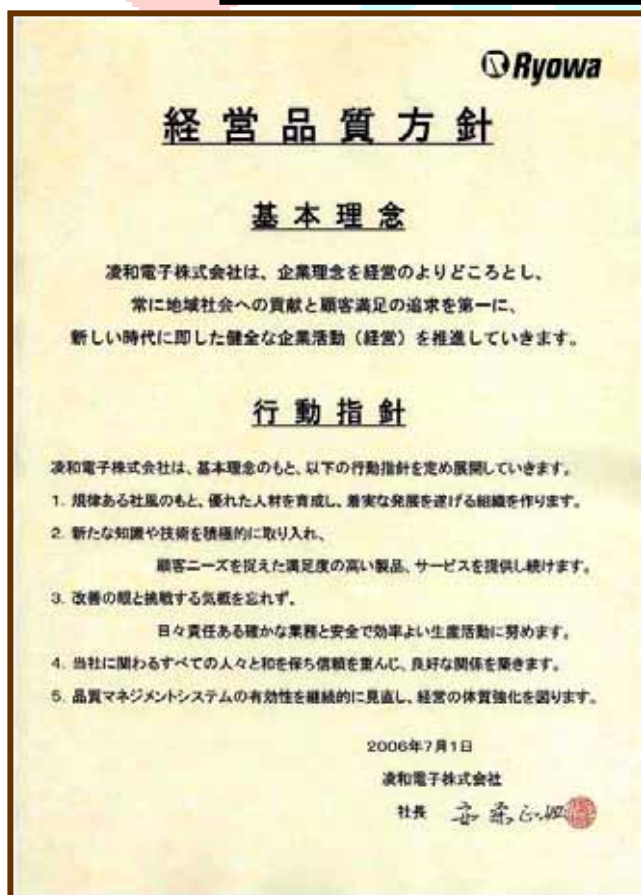


Ryowa

企業理念

凌和電子株式会社は
「創造と奉仕の精神」をモットーに
日々、技術の研鑽に努め
より良い技術を創造して市場に提案しつづけることで
社会に奉仕します。

2003年4月1日
凌和電子株式会社
社長 安藤正昭



Ryowa

経営品質方針

基本理念

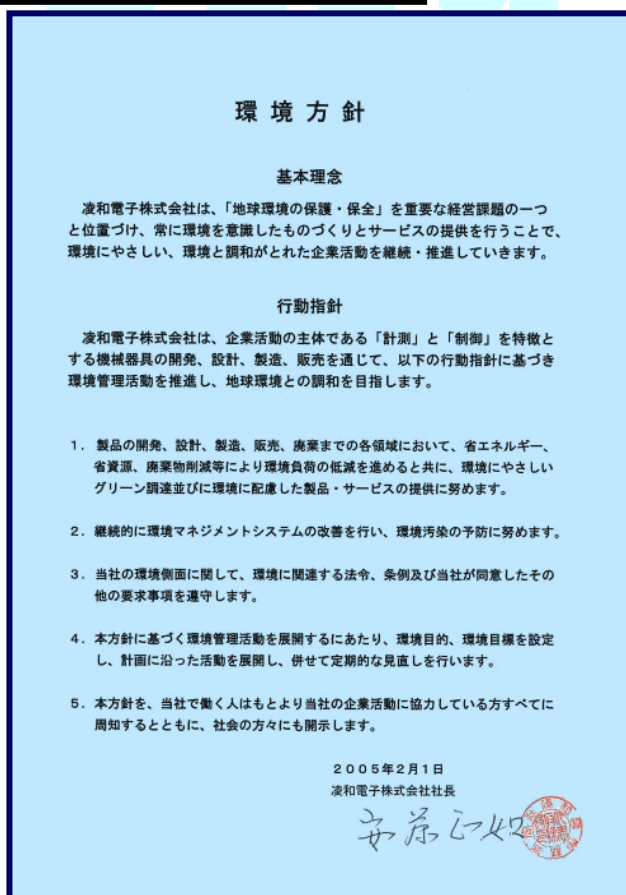
凌和電子株式会社は、企業理念を経営のよりどころとし、常に地域社会への貢献と顧客満足の追求を第一に、新しい時代に即した健全な企業活動（経営）を推進していきます。

行動指針

凌和電子株式会社は、基本理念のもと、以下の行動指針を定め展開していきます。

1. 規律ある社風のもと、優れた人材を育成し、着実な発展を遂げる組織を作ります。
2. 新たな知識や技術を積極的に取り入れ、顧客ニーズを捉えた満足度の高い製品、サービスを提供し続けます。
3. 改善の暇と挑戦する気概を忘れず、日々責任ある確かな業務と安全で効率よい生産活動に努めます。
4. 当社に関わるすべての人々と和を保ち信頼を重んじ、良好な関係を築きます。
5. 品質マネジメントシステムの有効性を継続的に見直し、経営の体質強化を図ります。

2006年7月1日
凌和電子株式会社
社長 安藤正昭



環境方針

基本理念

凌和電子株式会社は、「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい、環境と調和のとれた企業活動を継続・推進していきます。

行動指針

凌和電子株式会社は、企業活動の主体である「計測」と「制御」を特徴とする機械器具の開発、設計、製造、販売を通じて、以下の行動指針に基づき環境管理活動を推進し、地球環境との調和を目指します。

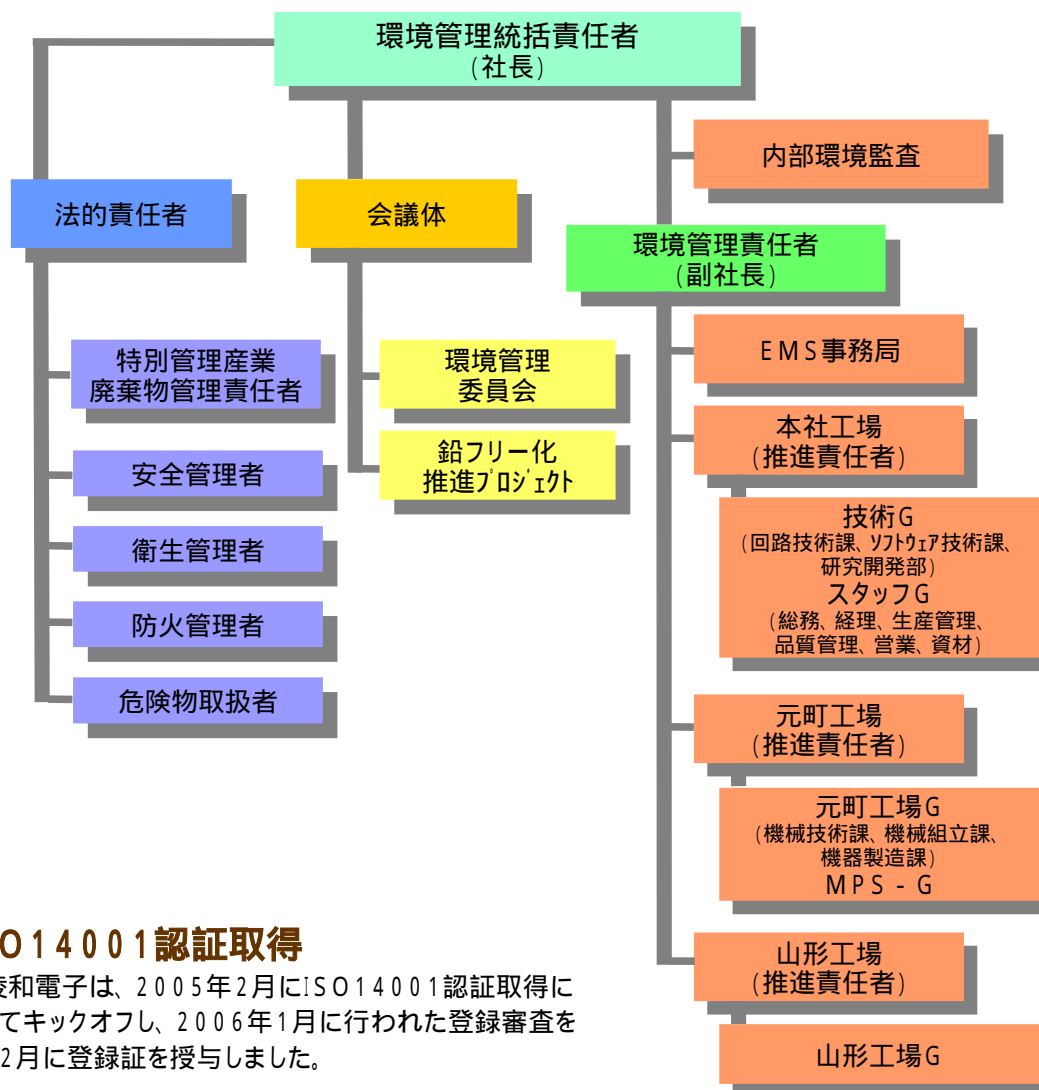
1. 製品の開発、設計、製造、販売、廃棄までの各領域において、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等により環境負荷の低減を進めると共に、環境にやさしいグリーン調達並びに環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
2. 継続的に環境マネジメントシステムの改善を行い、環境汚染の予防に努めます。
3. 当社の環境側面に関して、環境に関連する法令、条例及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
4. 本方針に基づく環境管理活動を展開するにあたり、環境目的、環境目標を設定し、計画に沿った活動を展開し、併せて定期的な見直しを行います。
5. 本方針を、当社で働く人はもとより当社の企業活動に協力している方すべてに周知するとともに、社会の方々にも開示します。

2005年2月1日
凌和電子株式会社社長
安藤正昭

5. 環境マネジメントシステム

凌和電子は、昨年6月に環境マネジメントシステムを構築し、同7月より運用しています。環境管理体制は、社長を環境管理統括責任者とし、副社長を環境管理責任者と定め、各工場長が推進責任者となり、活動を推進しています。

環境管理体制



ISO 14001 認証取得

凌和電子は、2005年2月にISO 14001 認証取得に向けてキックオフし、2006年1月に行われた登録審査を経て2月に登録証を授与しました。



適用範囲：

本社、本社工場、元町工場、東部工場、山形工場
 認証登録機関：BVQI
 認証登録番号：187102

6. 2005年度環境目標及び活動実績

凌和電子では、環境目的・目標(中期目標、年度目標)及び環境マネジメントプログラム(年度目標を具体的に展開した活動計画)を策定し、活動を展開しています。2005年度は、地球温暖化ガスの排出量の削減等環境負荷の低減はもちろん、当社のお客様がEUのRoHS指令への対応を強化されていることより、環境配慮型の製品を提供する仕組みを構築し、実施しました。

2005年度活動実績(報告範囲:本社工場、元町工場、山形工場)

2005年度に設定した目標は11項目でそのうち10項目を達成しました。このうち地球温暖化ガスの削減、節水活動の推進、紙資源の削減は計画を大幅に上回る結果となりました。目標未達とした項目は、環境配慮型製品の提供に絡んでの「製品アセスメントの実施」でした。具体的目標としては、管理部門が指定する対象製品について100%実施することとし、数字は達成しましたが、指定する製品の絶対数が当社の業態から少なかったと判断し、活動が低調としてあえて未達扱いとしました。次年度は仕組みの見直しも含めて積極的に取り組みます。

* 2005年7月から2006年1月までの東部工場の活動結果は、計画値と共に元町工場に合体させて評価しました。(2006年2月に環境影響評価及び目的・目標の見直しを実施)

評価基準

○:中期計画をクリア △:計画対比100%以上達成 ●:95%以上達成 ×:95%未満

実績算出

実績値(%) : 2005年度計画対比 / ()は同原単位比(人員ベース)

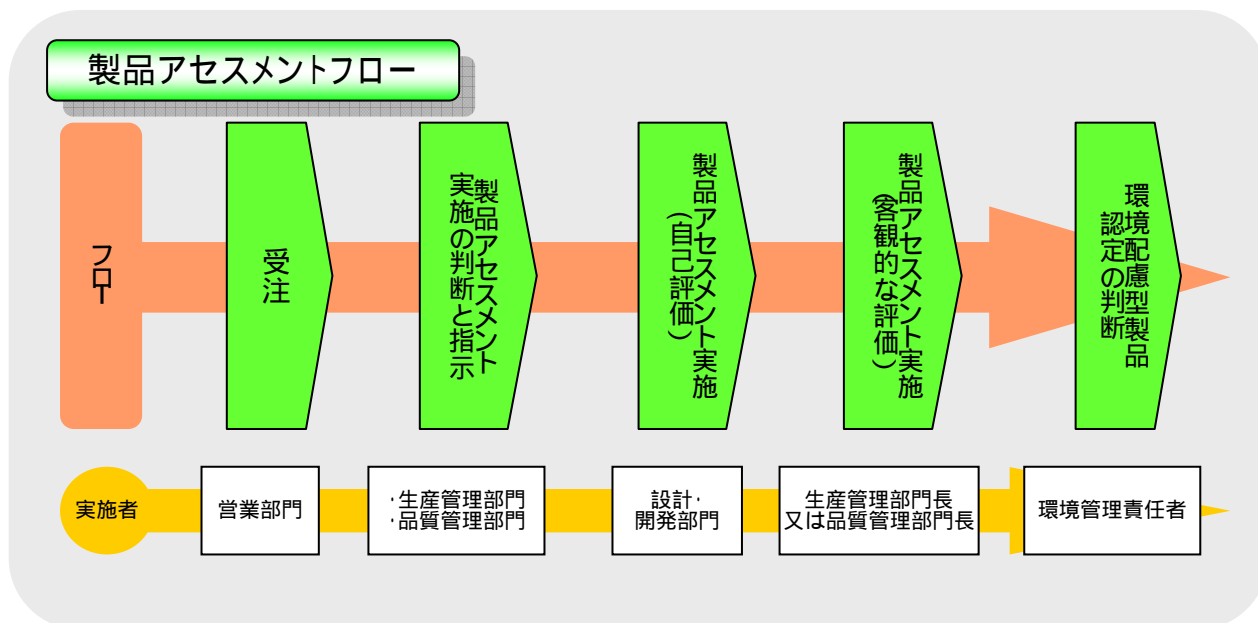
	項目	全社目的・目標		全社活動結果		関連ページ
		中期計画 2007年度	年度計画 2005年度	実績 (計画対比)	評価	
1	環境配慮型製品の提供	環境配慮型化推進 (客先要求品全て)	製品アセスメント100% 実施(指定品について)	100% (4件)		P 7
2	オフィス用品のグリーン調達(調達率)	100%	100% (2005年度末)	2006年3月以降 100%継続		P 8
3	地球温暖化ガスの排出削減	6%	2%	10.3% (17.0%)		P 9
4	紙資源の削減(購入量)	10%	3%	31.1%		P 12
	節水活動の推進(水使用量)	±0%	±0%	18.2% (17.0%)		P 12
	紙リサイクルの推進(リサイクル率)	70%	30%	100%		P 13
5	廃棄物の排出削減(実績把握)	10%	実績把握	実績把握 (リサイクル推進)		P 13
6	化学物質管理 ・リストアップ・MSDS・手順書(部門)	MSDS、手順書 整備100%	MSDS、手順書 整備100%	MSDS、手順書 整備100%		P 14
7	環境リスクの低減	評価点を 基準未満とする	リスク軽減策の実施 (元町)	リスク対策完		P 14
8	環境コミュニケーション	環境報告書発行	環境ニュース発行 (6回/年)	14回		P 19
		美化活動 (4回/年)	美化活動 (4回/年)	全工場 4回/年実施		P 20

7. 環境配慮型製品の提供

凌和電子では、開発、設計段階で製品アセスメントを実施し、省エネ、小型軽量化、長寿命化に加えて、有害化学物質を含有しない等の環境に配慮した製品の開発を進めています。

製品アセスメント

環境配慮型製品の提供に当たっては、開発・設計の段階で環境に関わる諸因子を評価する製品アセスメントを実施しました。2005年度は当社初めての試みでもあり、試験的实施を経て本格運用に入りましたが、結果として実施件数も少なく、定着までにはいたりませんでした。次年度は仕組みの見直しも含めて積極的に取り組みます。



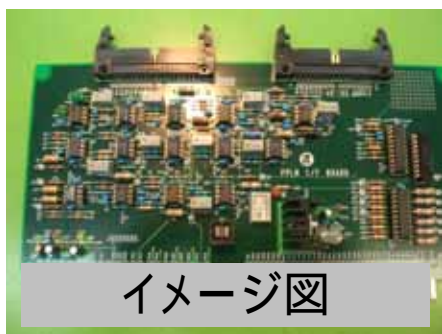
RoHS指令等への対応

凌和電子では、EUのRoHS指令に対応し、含有禁止6物質(鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PB B、PBDE)並びに当社のお客様が定めた使用禁止化学物質及び含有禁止化学物質を全廃物質とし、活動を展開しています。

EU: 欧州連合
RoHS指令: 電機電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令

環境配慮型製品事例

防災監視機器部品を鉛フリーにして設計製品化しました。



環境に関わる主要諸因子 (製品アセスメントの個別評価項目)

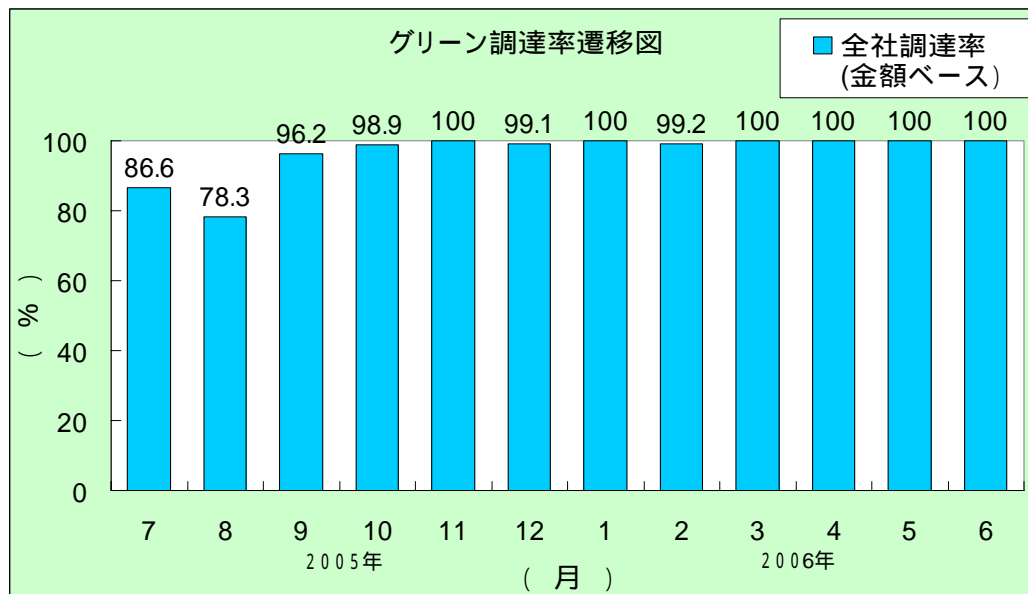
- ・省エネ・省資源化
- ・有害化学物質排除(最重要)
- ・リサイクル性
- ・長寿命化
- ・包装材削減
- ・易分解・解体性

8. グリーン調達

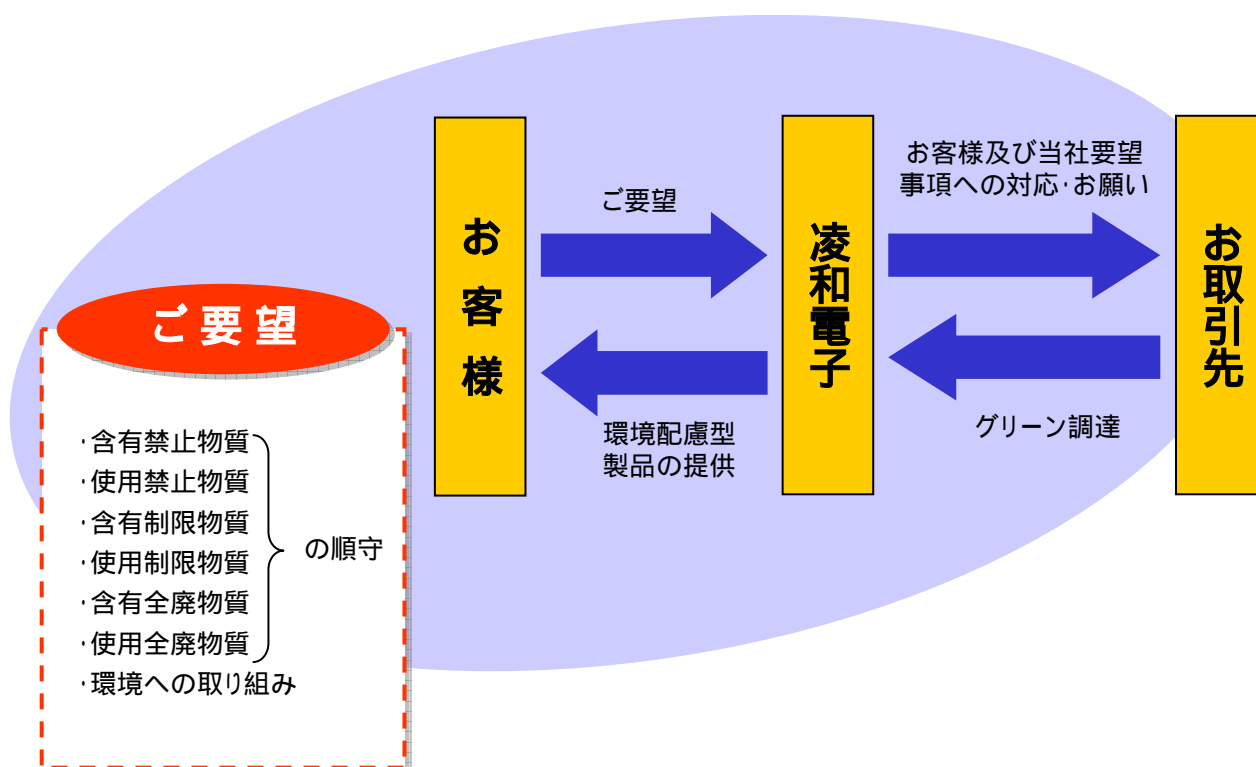
凌和電子は、オフィス用品購入時には環境に配慮した物品を選択して購入しています。生産資材についても調達ルールを定め、当社のお客様の要求を順守しています。また、当社のお取引先様には、有害化学物質の回避等関連するお願いをいたしました。

オフィス用品グリーン調達推移

(環境目標: 6月までに調達率100%とすること)



取引先への要望



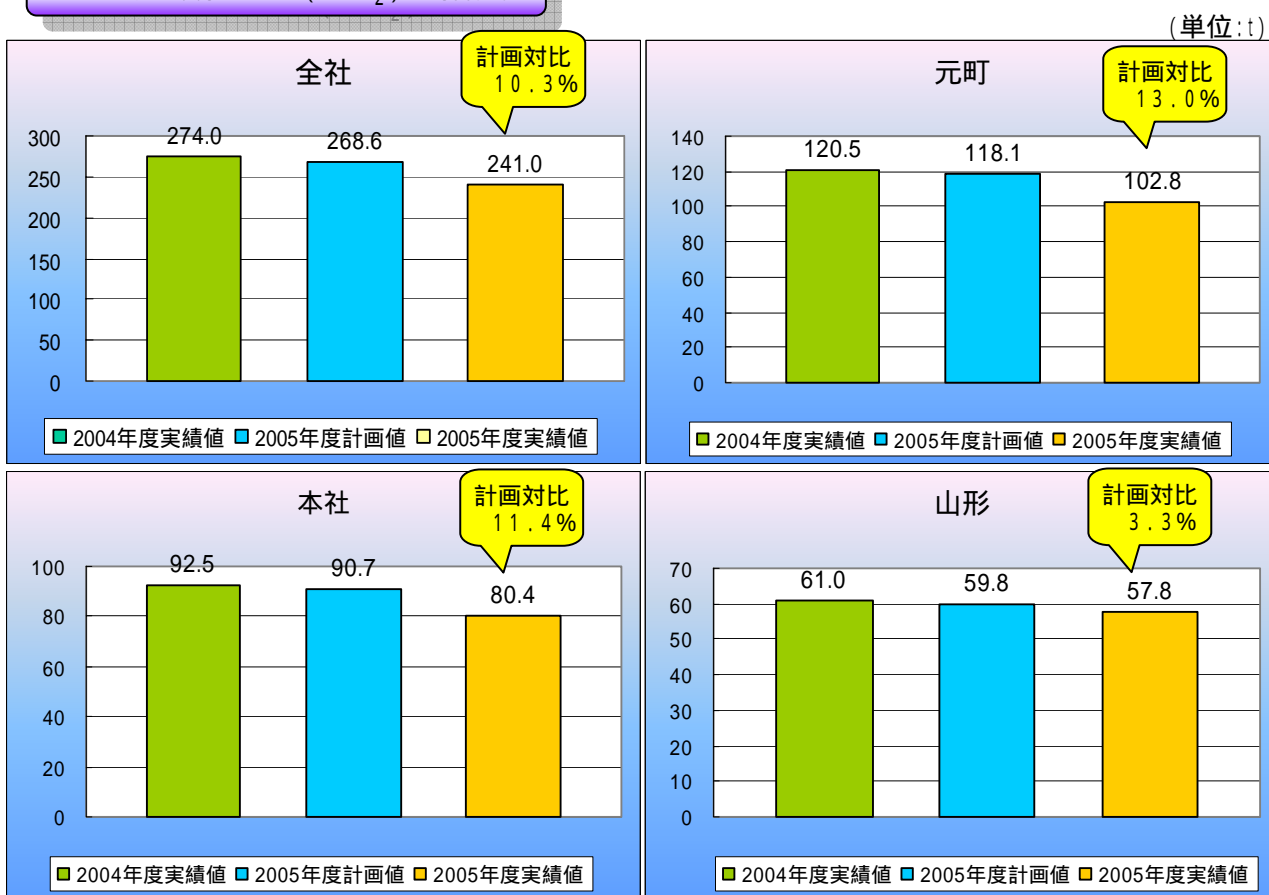
9. 環境負荷低減活動

凌和電子では、事業活動のあらゆる分野で環境負荷低減を目標に掲げ活動しています。ここでは2005年度の負荷状況を2004年度と対比して報告します。尚、2006年2月に東部工場が元町工場に併合されたことに伴い、負荷状況は両工場の合算値として表してしています。

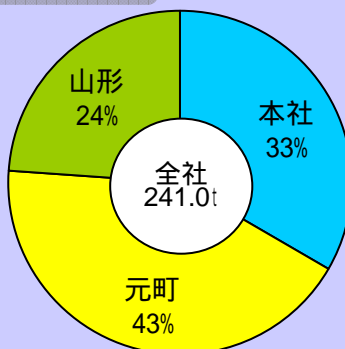
地球温暖化ガスの排出削減

2005年度の凌和電子としての地球温暖化ガスの排出は二酸化炭素のみであり、その排出量は約241トンでした。これは今年度計画値に比べて10.3%の減と大幅な削減です。又人員原単位での比較では17.0%の減、売り上げ原単位での比較でも11.8%減となりました。工場毎では、どの工場も計画を達成しましたが、特に本社工場、元町工場の寄与が大きい結果となりました。東部工場の併合も大きく寄与しました。

地球温暖化ガス(CO₂)の削減



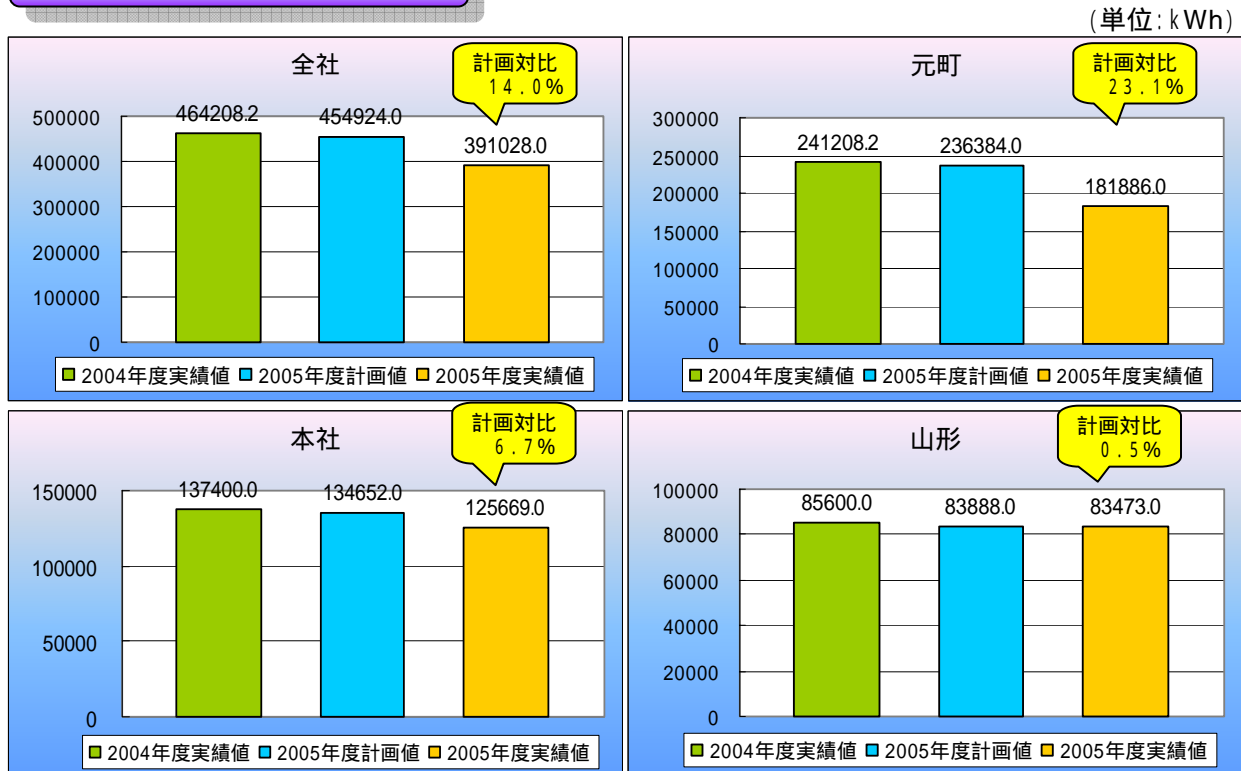
工場毎の排出比率



個別のエネルギー使用の削減結果

二酸化炭素削減に繋がるエネルギー使用量については、電力とガソリン(軽油含む)は大幅に削減できましたが、灯油についてはこの冬厳しい寒さが続いたことや、東部工場において空調機の不調で急遽灯油による暖房に切り替えたことにより増となりました。

電気使用量の削減



節電啓蒙



元町

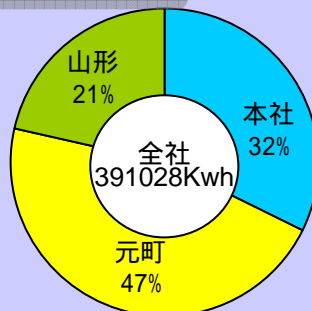


東部



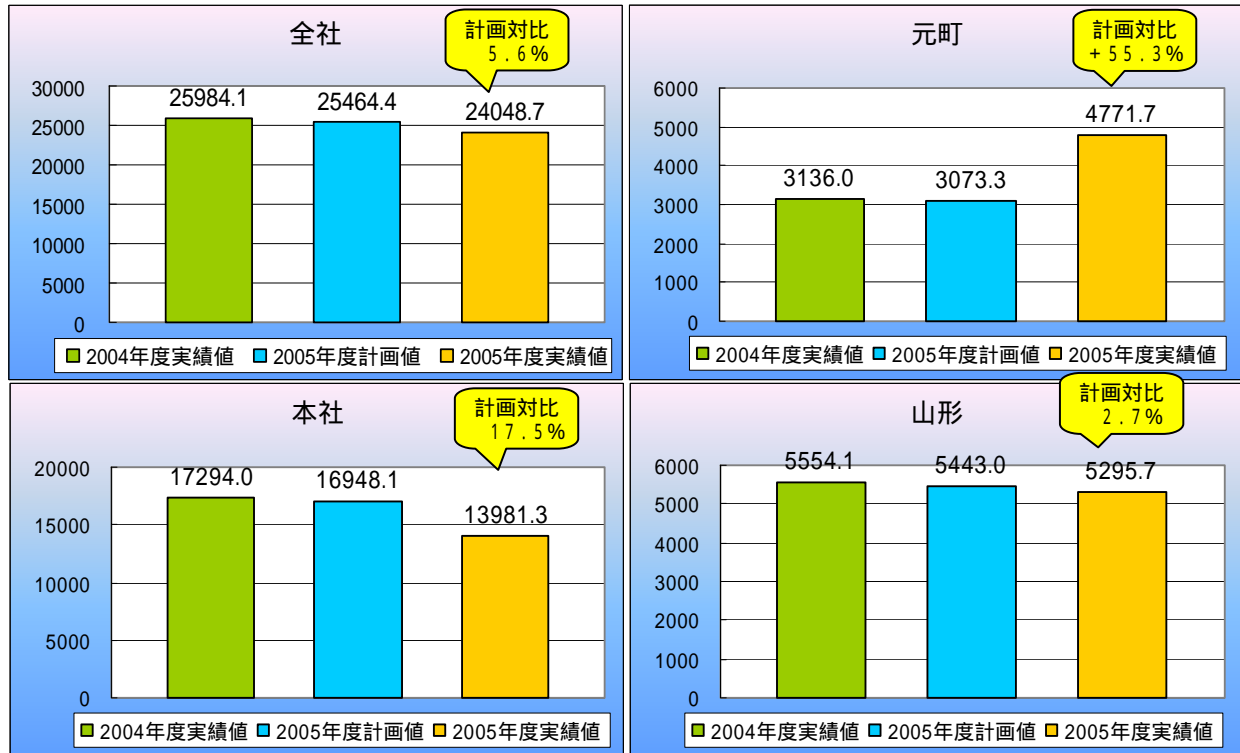
山形

工場毎の使用比率



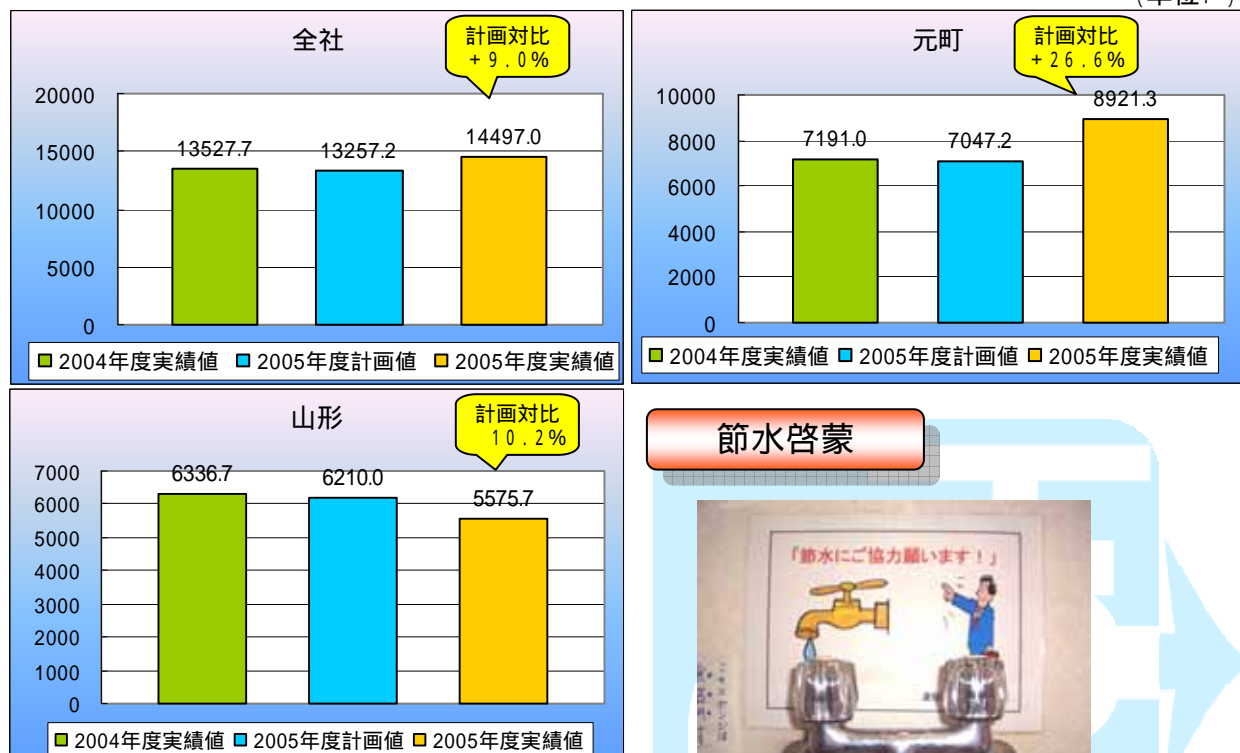
ガソリン・軽油使用量の削減

(単位:)



灯油使用量の削減

(単位:)



節水啓蒙



山形

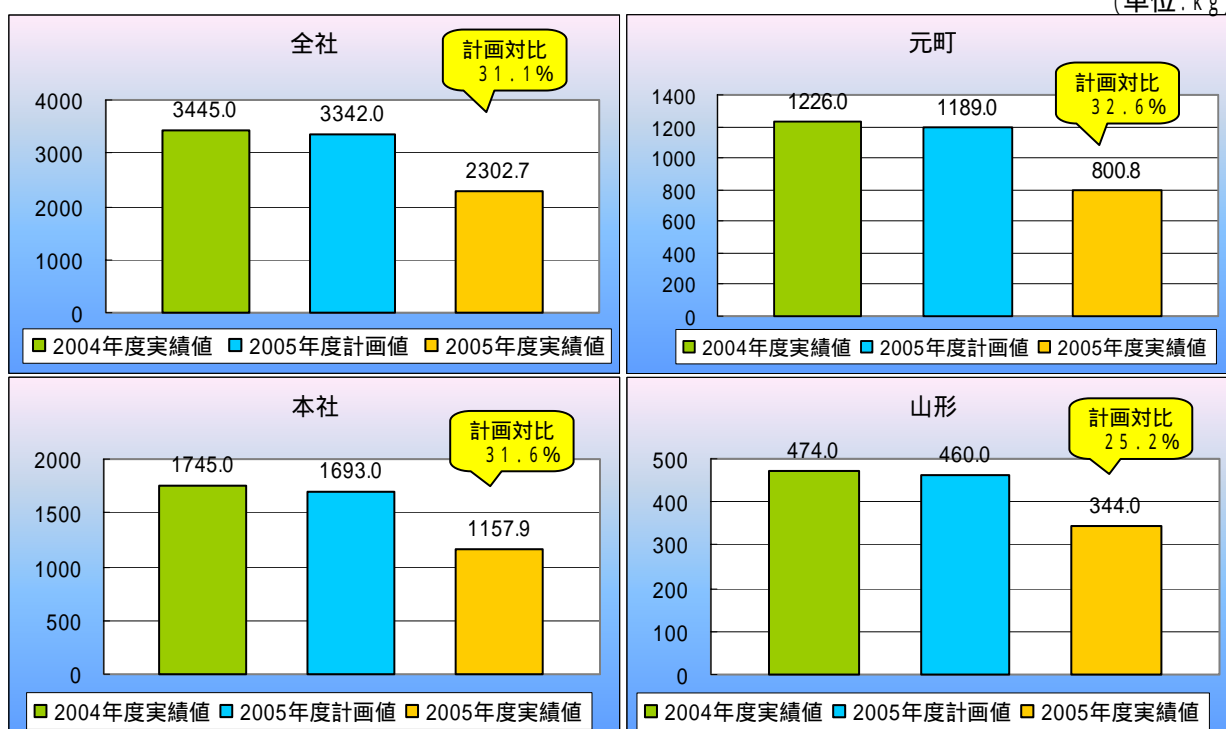
省資源活動

凌和電子では、エネルギー資源の削減に加えて、紙資源及び水資源の削減活動を行いました。

紙資源の削減

2005年度のコピー用紙使用量(購入ベース)は2.3トンであり、前年度に比べて33%と大幅な削減をいたしました。裏紙使用や配付基準の見直しに加えて、電子配信が定着したことによるものと考えています。

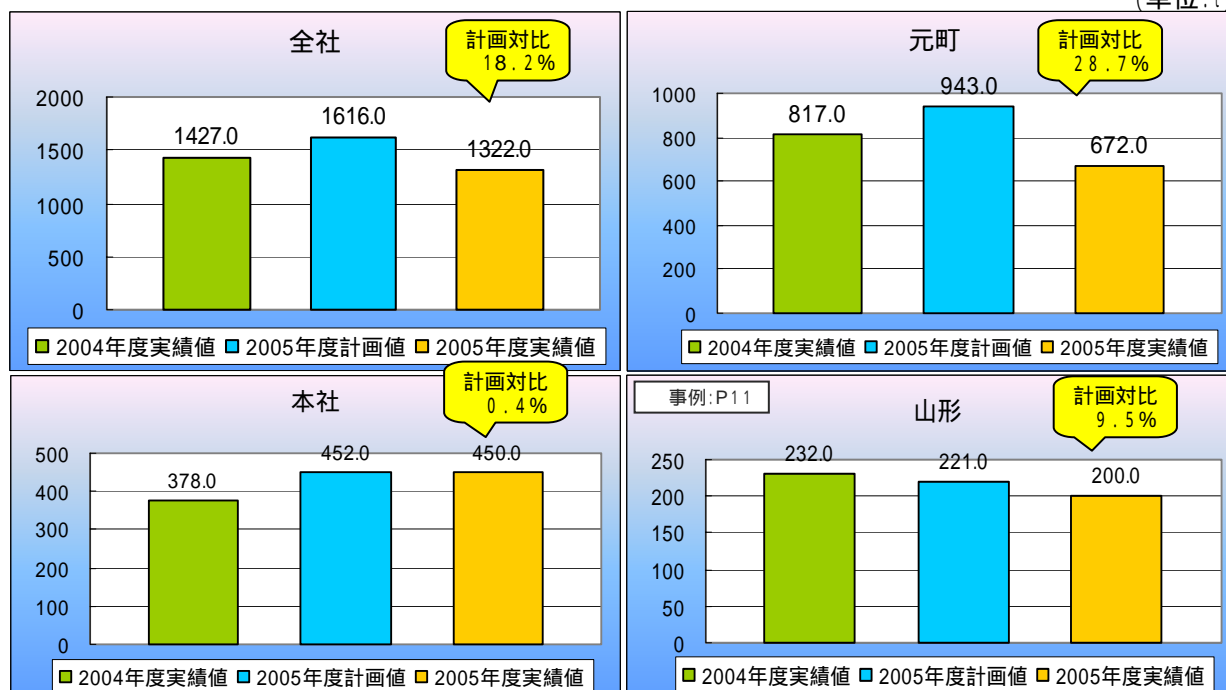
(単位: kg)



節水活動の推進

2005年度の水使用量は1322トンであり、前年度比7.4%と大幅な削減(計画対比では18.2%減)となりました。当社では殆どが生活用水として用いており、こまめな節水活動が実ったものと考えています。

(単位: t)



廃棄物の排出削減

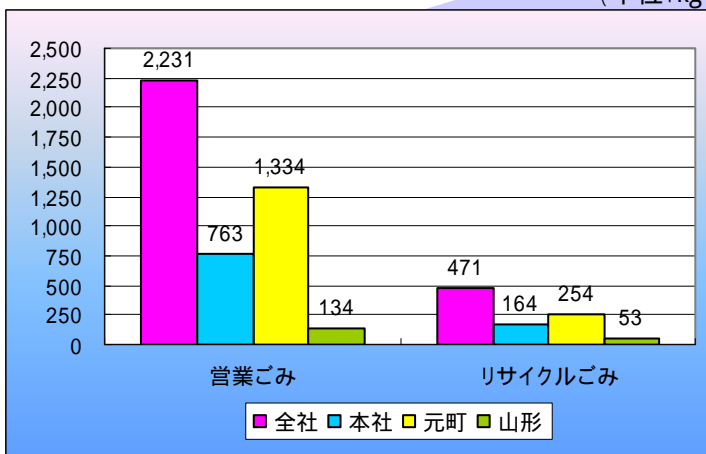
2004年度までは一般廃棄物及び産業廃棄物とも排出量を定量的には把握していませんでしたので、2005年度は排出量の把握を主体としながら、且つリサイクル化にも取り組みました。

一般廃棄物

～紙リサイクルの推進～

2005年度の凌和電子の一般廃棄物の排出量は2.7トンでした。又、2005年度は、排出量の把握と共に年度初めより再資源化可能な紙類の分別活動を徹底しました。凌和電子の2005年度の紙類(雑誌、新聞、カタログ、コピー用紙、ダンボール)の再資源化量は10.1トンで、リサイクル率は2005年4月より継続して100%でした。そのうちコピー用紙は2005年度0.5トン再資源化しました。このことより一般廃棄物としては、分別が不徹底であった前年度に比べて約14%の減が図られたものと推測しています。

(単位:kg) リサイクル活動(本社)



営業ゴミ: 生ごみ・プラスチック等燃えるごみ
リサイクルごみ: 缶・ビン・ペットボトル等飲料用容器類



分別リサイクル(東部)



紙類グリーン回収(本社)

産業廃棄物

2005年度の凌和電子の産業廃棄物の排出量は(木屑を除いて)2.08トンでした。排出物は、金属屑、廃プラスチック、配線屑が主なものでした。工場別には、山形工場が最も多く次いで元町工場、本社工場の順になっています。東部工場排出分は元町工場としてカウントしています。金属屑はすでにリサイクルを行っており、次年度はゼロエミッション化も視野に入れながら削減活動に取り組む予定です。

(単位:kg)



木屑は事業系一般廃棄物ですが2005年度は産業廃棄物の中で表示しました



廃棄物置き場分別保管(山形)



廃棄物置き場分別保管(元町)

化学物質管理

凌和電子では、化学物質の使用、保有量は少量ですが、購入ルール、保管管理ルール、廃棄ルールを制定し、有害化学物質の購入禁止、制限等の管理の強化を図ると共に長期滞留品を適正処分しました。なお、PCBは保有していません。

化学物質リスト

	化学物質名(製品名)	保管量(最大)	使用量(/月)	MSDSの有無
1	エチルアルコール	500m	50m /月	有
2	ラッカーシンナー	54	10 /月	有
3	プレピン油	18	5 /月	有
4	イソプロピルアルコール	36	1 /月	有



化学物質保管整理(山形)

10. 環境リスクマネジメント

凌和電子は、大きい環境事故に繋がる環境側面は有していませんが、どんな小さな環境事故も起こさないとの姿勢でその未然防止を重点として活動を展開しています。更に廃棄物に関わるリスク対策として、委託業者を全面見直しし、より信頼できる業者を選定しました。

未然防止対策

元町工場と山形工場では暖房用として灯油を使用していますが、この灯油置き場を重点監視施設とし、日常管理はもちろん、万一漏出したときの拡散防止のための受器の設置や土嚢の準備を行いました。また、元町工場の灯油タンクを新品に交換しました。廃棄物処理業者においては、現地確認を行いました。



灯油置き場 左:旧 右:新(元町)



灯油置き場(山形)



土嚢準備(元町)

法順守及び苦情への対応

凌和電子においては、過去3年環境に関わる法違反及び国、県、市からの指導はありませんでした。又、環境事故並びに地域住民からの苦情もありませんでした。

11. 環境教育

凌和電子では、環境教育は社員一人ひとりが環境を意識した行動を取る上で大変重要なものと位置づけ、継続的に実施しています。

環境教育の実施

教育名	実施部門	実施日	受講者数								
経営層・幹部教育	環境保護推進室	全社 7月21日	12名								
管理職・一般社員教育(第一回)	環境保護推進室	<table border="1"> <tr> <td>本社工場</td> <td>4月20日</td> </tr> <tr> <td>元町工場</td> <td>4月18日</td> </tr> <tr> <td>東部工場</td> <td>4月25日</td> </tr> <tr> <td>山形工場</td> <td>4月22日</td> </tr> </table>	本社工場	4月20日	元町工場	4月18日	東部工場	4月25日	山形工場	4月22日	119名
本社工場	4月20日										
元町工場	4月18日										
東部工場	4月25日										
山形工場	4月22日										
管理職・一般社員教育(第二回)	環境保護推進室	<table border="1"> <tr> <td>本社工場</td> <td>9月12日</td> </tr> <tr> <td>元町工場</td> <td>9月13日</td> </tr> <tr> <td>東部工場</td> <td>9月14日</td> </tr> <tr> <td>山形工場</td> <td>9月15日</td> </tr> </table>	本社工場	9月12日	元町工場	9月13日	東部工場	9月14日	山形工場	9月15日	113名
本社工場	9月12日										
元町工場	9月13日										
東部工場	9月14日										
山形工場	9月15日										
新入社員教育	環境保護推進室 ISO推進室	(全社 4月13日) (2006年)4月10日	7名 1名								
専門分野別教育											
廃棄物保管管理者教育	環境保護推進室	(全社 5月30日)	4名								
灯油取り扱い者専門教育		<table border="1"> <tr> <td>元町工場</td> <td>9月13日</td> </tr> <tr> <td>東部工場</td> <td>9月14日</td> </tr> <tr> <td>山形工場</td> <td>9月15日</td> </tr> </table>	元町工場	9月13日	東部工場	9月14日	山形工場	9月15日	6名		
元町工場		9月13日									
東部工場		9月14日									
山形工場		9月15日									
溶剤取扱者専門教育		<table border="1"> <tr> <td>東部工場</td> <td>9月14日</td> </tr> <tr> <td>山形工場</td> <td>9月15日</td> </tr> </table>	東部工場	9月14日	山形工場	9月15日	7名				
東部工場	9月14日										
山形工場	9月15日										
半田付作業者専門教育	<table border="1"> <tr> <td>東部工場</td> <td>9月14日</td> </tr> <tr> <td>山形工場</td> <td>9月15日</td> </tr> </table>	東部工場	9月14日	山形工場	9月15日	23名					
東部工場	9月14日										
山形工場	9月15日										
産業廃棄物管理者専門教育	東部工場 12月20日	1名									
内部環境監査員教育	環境保護推進室	<table border="1"> <tr> <td>5月27日</td> </tr> <tr> <td>全社 7月25日</td> </tr> <tr> <td>8月24日</td> </tr> <tr> <td>9月22日</td> </tr> </table>	5月27日	全社 7月25日	8月24日	9月22日	9名				
5月27日											
全社 7月25日											
8月24日											
9月22日											
環境管理推進者教育	環境保護推進室	全社 12月20日 (2006年)1月7日	14名								

・環境保護推進室は平成18年2月1日にISO推進室と改称しました

()は2004年度実施項目

・上表において、各工場の対象者に対して一括して実施したものを「全社」としました



環境管理推進者教育(全社)

環境管理推進者教育

各工場、管理職、推進リーダーを対象に、登録審査受審準備として環境用語の復習、これまでの活動の整理、必要書類の確認等をロールプレイを含めて実施しました。

階層別一般教育

対象は経営層から一般社員(パート社員、アルバイト社員、派遣社員含む)まで全員としています。

特に、活動の中核となる管理職・一般社員に対しては、当初年1回の実施としていたものを2回に増やし充実化を図りました。



管理職・一般社員教育(本社)



管理職・一般社員教育(山形)



管理職・一般社員教育(元町)



管理職・一般社員教育(東部)

新入社員新教育



教育時使用テキスト

4月入社の新入社員に対して、環境保全の大切さと当社の環境への取り組みなどを教示しました。

専門分野別教育

廃棄物の保管管理や有機溶剤の取り扱い等環境保全に関わりの大きい業務を行う者に対しては、その分野の専門教育も計画し、実施しました。



教育時使用テキスト類



内部環境監査員教育(全社)

内部環境監査員教育

5月から9月にかけて自社内で自社講師を擁しての環境マネジメントシステム(ISO14001)に不可欠の内部環境監査員養成講座を開き、7名の監査員を養成しました。

12. 環境監査

凌和電子は、環境マネジメントシステムの維持・向上には自主監査レベルの向上が不可欠との考えのもと監査体制の充実化を図っています。

監査体系

監査の種類	監査の内容	実施
ISO14001適合審査	BVQI審査員による ISO14001適合審査	年1回
内部環境監査	当社認定監査員によるパフォーマンスを含む ISO14001適合監査(全職場)	年1回
環境管理責任者パトロール	環境管理責任者を隊長とする環境、品質、 5S、安全を含めての総合監査	年1回

監査結果

ISO14001適合審査

凌和電子では、適合審査は「認証登録審査」として2006年1月に行われました。審査結果は予備審査と合わせて不適合事項なし、改善の機会12件でした。尚、「改善の機会」についても、よりよいシステムを目指し積極的に取り組み全項目対応しました。

指摘項目	指摘件数	是正改善措置
優れている活動 (良好)	1件	-
要求事項を満たしていない事項 (不適合事項)	0件	-
改善を要する項目 (改善の機会)	12件	完



トップインタビュー風景



現場審査(本社)



現場審査(東部)



部門審査(元町)



部門審査(山形)

内部環境監査

内部環境監査は環境管理責任者及び全工場を対象として実施しました。
指摘のあった不適合事項はもちろん、アドバイス事項についても全て是正・改善が完了しています。

受信部門	実施時期	不適合件数	アドバイス件数	是正状況
環境管理責任者 EMS事務局	10月18日	0	6	是正完
本社工場	10月18日 10月20日	4	14	是正完
元町工場	10月18日 10月20日	1	13	是正完
東部工場	10月18日 10月20日	0	7	是正完
山形工場	10月20日	3	18	是正完
合計	-	8	58	-



環境管理責任者・EMS事務局監査



東部

環境管理責任者パトロール

環境管理責任者パトロールは、副社長をトップに専門知識を有するスタッフがチームを組み、環境はもとより、安全・品質・5Sも視野に入れて実施するものです。
今回は2006年1月12日に行ない、全社で34件の改善指示が出されましたが全て是正しました。



山形

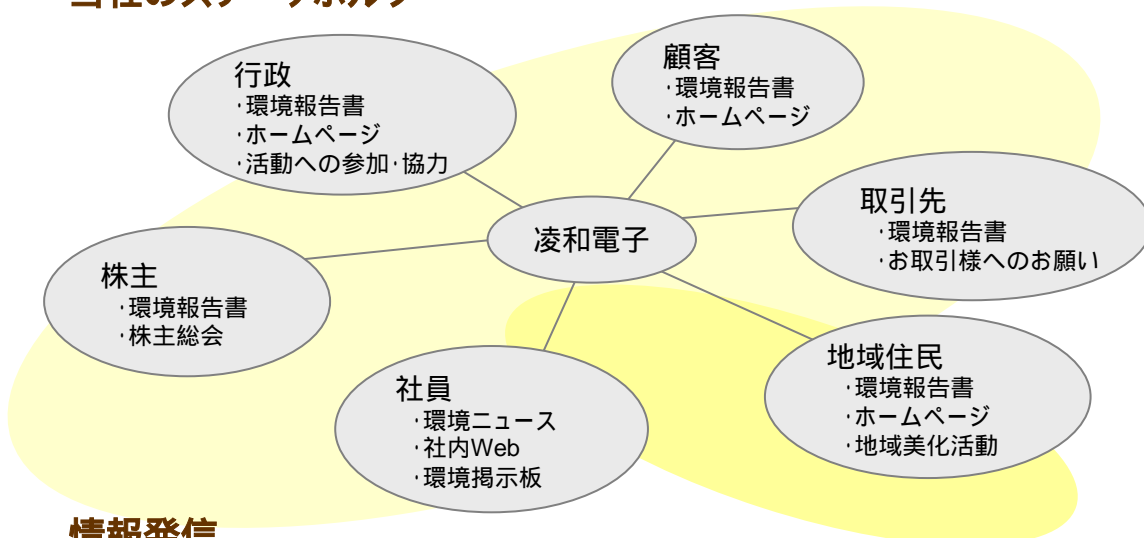


東部

13. 環境コミュニケーション

凌和電子は、ステークホルダーの方々にさまざまな形で環境に関わる情報を発信し、ご意見を頂戴しています。

当社のステークホルダー



情報発信

環境報告書

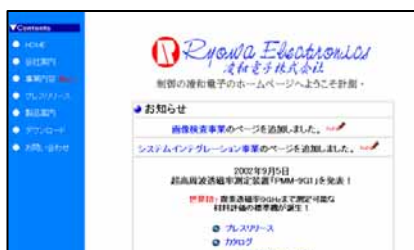
凌和電子では、この環境報告書を第1号として発行しました。これからもコミュニケーションの重要な手段として継続して発行します。



環境報告書2006(表紙)

ホームページ

凌和電子のホームページに、環境に関する活動情報や環境報告書を開示しています。



凌和電子ホームページ

環境ニュース

社員への情報発信手段として、環境ニュースをほぼ月一回のペースで発行しています。内容は環境活動の計画、活動状況を初め、トピックスとしての職場活動紹介、啓蒙記事、法改正情報、環境用語の解説、顧客の要求事項、社会動向など幅広く織り込み、社員の意識向上にも繋がることを意図しています。



環境ニュース

社内イントラネット、掲示板

社内イントラネットに環境のコーナーを設け、環境規定類、帳票類、環境活動実績、環境情報、環境に関わる議事録等を開示しています。また、職場ごとに環境掲示板を設け、必要な情報を開示し全社員に周知徹底しています。



社内Web



環境掲示板(元町)

14. 地域貢献活動

凌和電子は、「地域社会への貢献」の一環として工場周辺の美化活動や通学路の除雪、そして地域・行政イベントへの参加・協力を積極的に行っています。

周辺美化活動



本社



通学路の除雪(山形)



元町



山形

イベントへの参加・協力

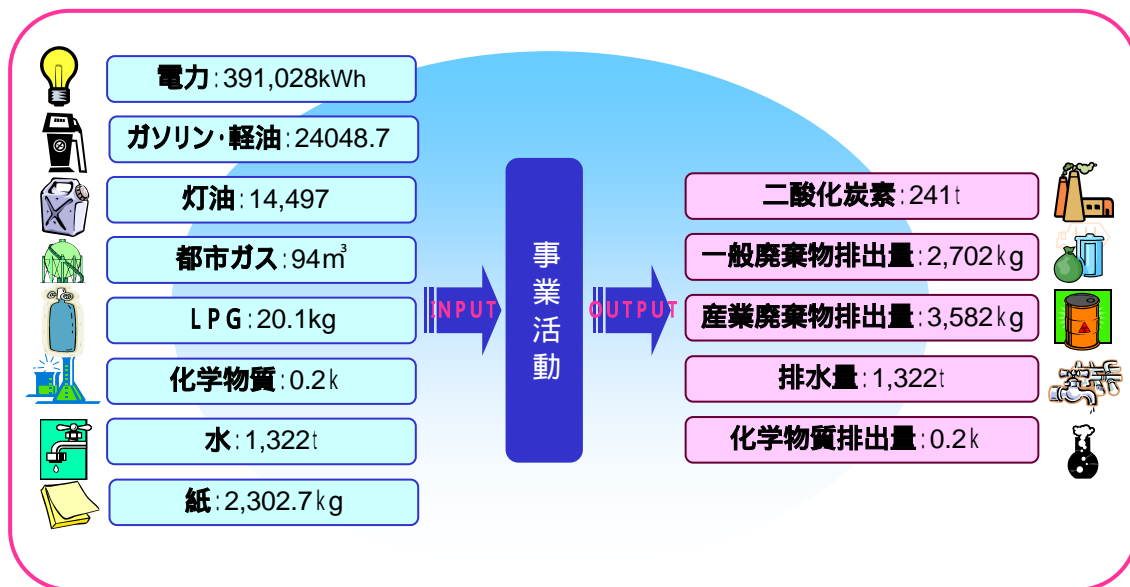
仙台・みやぎクールビズ実行委員会(環境省・宮城県・仙台市等)が進めている「仙台・みやぎクールビズ宣言」に参加しました。社員全員がバッジやシールを身につけ地球温暖化防止に協力しました。



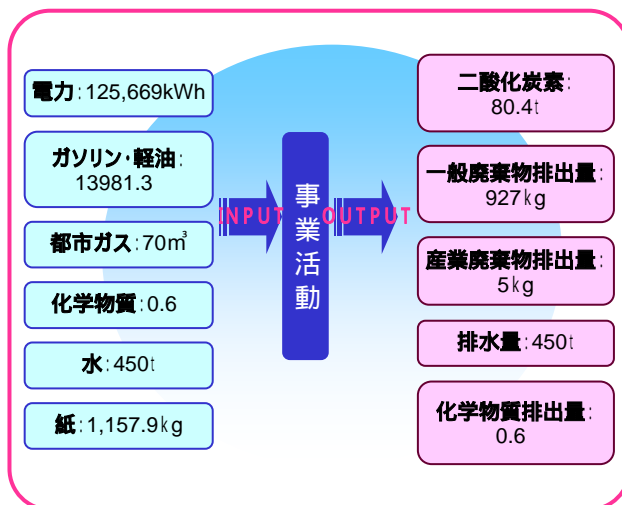
仙台・みやぎクールビズ宣言

15. 環境負荷マスマバランス

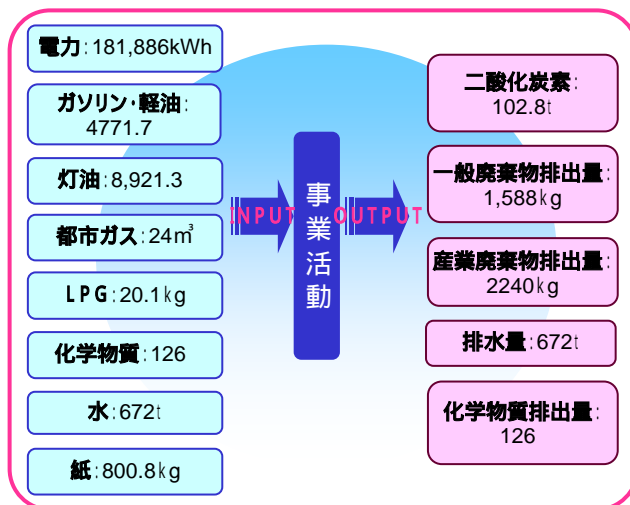
全社



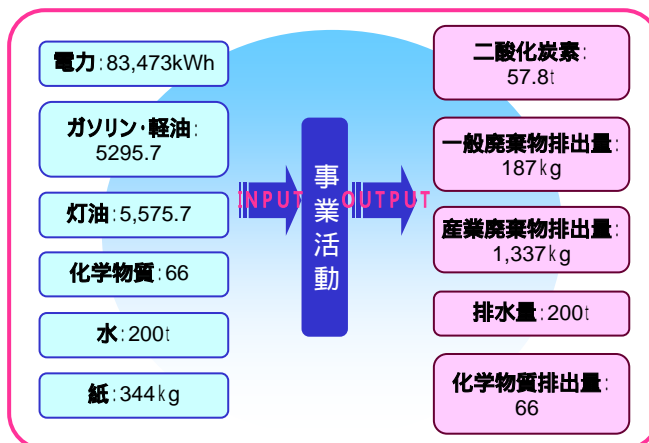
本社



元町



山形



凌和電子株式会社

〒984-0805 宮城県仙台市若林区南材木町48番地

ホームページ : <http://www.ryowa-electronics.co.jp/>

発行 : 2006年9月

次回発行予定 : 2007年9月

お問い合わせ先 品質管理課 ISO推進室

Tel : 022-266-4188 (代表)

Fax : 022-268-1906
